昭和期住宅の廊的空間における機能に関する研究

縁側・廊下におけるこどものあそび行為の変遷を中心として

THE FUNCTION OF RŌ-SPACE IN THE HOUSE FROM THE SHOWA ERA

A study focused on the transition of children's play in *En-gawa* and *Rōka*

高木 真人*, 小川 一人**, 仙田 満***

Masato TAKAGI, Kazuto OGAWA and Mitsuru SENDA

We define "Rō-Space" as the subsidiary space to rooms. Rō-Space is further categorized into two types; open type such as "En-gawa", and closed type such as "Naka-Rōka". The results of our research shows that the function of incidental space varies far more than that as a passageway. Mainly due to the shortage of space and sunlight, closed type lacks some of the activities observable in the other type, such as children's play, creative activities, interactions among persons, drinking and eating, etc. To enrich our residential environment by multiple kinds of activities, we need to renew our views on the important role played by open type.

Keywords: House, En-gawa, Naka-Rōka, Function, Children, Play

住宅, 縁側, 中廊下, 機能, こども, あそび

1. 研究の目的

日本の住宅における縁側、廊下などの付属的空間は、古代の寝殿造における廊や庇・縁といった空間を起源としての長い歴史を有する。廊下に限らず、縁側や玄関ホールなどの空間は、いずれも居室に対しては付属的な空間であるといえ、これらの空間を総称して廊的空間と定義する。これらの空間はかつては通路空間にとどまらない、多様な生活空間であった。近年、生活様式の変化にともない、そのような廊的空間の機能が変化し、またそこでの生活行為も大きく変化してきていると思われる。なかでも、こどものあそび行為において大きな意味があったと思われるのだが、それが失われてしまっているのではないだろうか。本研究は、昭和期における縁側、廊下に代表される廊的空間における行為の変遷を特にこどものあそびを中心として調べることによって、廊的空間における通行以外の様々な機能と、その機能に影響を与える空間構成の特質を分析・評価しようとするものである。

り録音し、記入もれのないように注意しながら行った。まず、被験者に10歳～12歳の頃に住んでいた住宅（以下、成育住宅という）の平面図を書いてもらい、その後に以下のような質問を中心にインタビュー調査を行った。

- 1) 「あなたの育った場所はどこですか？」
 - ・ □県△市
 - ・ 地域区分（住宅地、商業地、下町、農村、工業地帯など）
- 2) 「縁側や廊下など廊的空間について教えてください」
 - ・ 素材、スケール、明るさ
 - ・ 印象、自分にとってどういう空間であったか
- 3) 「その空間で印象に残っている出来事はなんですか？」
- 4) 「その空間でどのようなことを行いましたか？」
 - ・ あそびなど
 - ・ その行為を縁側や廊下など廊的空間で行った理由
- 5) 「家族の人は縁側や廊下など廊的空間でどのようなことを行っていましたか？」

2. 調査方法

2-1. 調査概要

調査は直接被験者と面談して、質問に対する返答を書き取るというインタビュー形式により、内容はすべてカセットレコーダーによ

2-2. 調査対象者

調査対象者は、1996年調査時の年齢が20代から60代以上の各世代20人ずつ計100人とする。調査対象者の職業、性別、世代構

* 東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻
大学院生博士課程・工修

** 東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻
大学院生修士課程

*** 東京工業大学建築学科 教授・工博

Graduate Student, Graduate School of Science and Eng., Dept. of Architecture and Building Eng., Tokyo Institute of Technology, M. Eng.

Graduate Student, Graduate School of Science and Eng., Dept. of Architecture and Building Eng., Tokyo Institute of Technology

Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Tokyo Institute of Technology, Dr. Eng.

成、成育地分布、成育地地域区分は、表1～表4、図1のようになっている。職業については、建築学科の学生や建築設計事務所など建築関係の人が全体の20.0%を占めている。性別構成については、各世代男女10人ずつを目標としたが、特に60代以上においては男性6人に対して女性14人と男女における人数差が生じており、分析において考慮する必要がある。成育地については、1都1道1府24県と全国的に拡散している。今回の調査地は東京およびその周辺であり、そのため被験者も現在すべて東京圏に在住している。成育地の54.0%が関東地方で占められているのもそのためであろう。また、内部空間と外部空間との関係に基づいて廊的空間を類型化するため、行為の舞台となる住宅は、庭付き一戸建て住宅に限定している。

図1 成育地分布

表1 職業

職業	人数
会社員	27
主婦	22
無職	20
大学生	20
サービス業	5
自営業	4
公務員	1
その他	1
計(人)	100

表2 世代構成

世代	男性	女性
60代以上	6	14
50代	9	11
40代	8	12
30代	10	10
20代	10	10
計(人)	43	57

表3 成育地地域区分

区分	人数
住宅地	75
商業地	5
農村	20
計(人)	100

表4 成育地分布

地方	都道府県名	人数
北海道	青森	1
	岩手	3
	秋田	4
	宮城	4
	福島	1
関東	千葉	14
	東京	25
	神奈川	12
	群馬	3
	長野	4
中部	新潟	2
	静岡	3
	石川	1
	愛知	1
	京都	2
近畿	滋賀	1
	岐阜	1
	三重	1
	山梨	2
	広島	4
中国	山口	1
	香川	1
	徳島	3
	長崎	1
	福岡	3
計(人)		100

3. 付属的空間による住宅のプランタイプ

3-1. プランタイプの類型

現在の建築における廊下の類型においては、一般的に片廊下と中廊下とに類型化されている。しかし、本研究における廊的空間の類型においてはその形状や通行という機能にのみとらわれることなく、廊的空間の通行以外の機能に最も影響を与え得る要素として、その空間が内部空間と外部空間との緩衝空間となり得るような拡張性を有するかという点に着目する。そこで、外部空間と内部空間を接続するように配置され、自由な出入りが可能となっている外部開放型と、外部空間とは切り離され完全に内部空間として独立している内部閉鎖型とに類型化する。外部開放型の廊的空間には、縁側、縁側廊下を始め、片廊下(大きな開口部を有し、外部に空間を拡張できるもの)が含まれる。また内部閉鎖型の廊的空間には、中廊下や玄関ホールを始め、片廊下(大きな開口部を有せず、外部に空間を拡張できないもの)が含まれる。

この廊的空間の類型をもとに住宅のプランタイプを類型化すると、外部開放型を有する(A)タイプ、内部閉鎖型を有する(B)タイプ、外部開放型と内部閉鎖型をともに有する(C)タイプの三種類が存在することになる(図2)。

図2 廊的空間よりみたプランタイプの類型

3-2. プランタイプの経年変化

世代別に成育住宅の廊的空間よりみたプランタイプの経年変化をみると、全体的に、外部開放型を有する(A)タイプは減少し、内部閉鎖型を有する(B)タイプが増加する傾向にある。60代以上の成育住宅は、(A)タイプ85.0%、(B)タイプ5.0%であるが、50代の成育住宅は、(A)タイプ55.0%と急激に減少し、(B)タイプ30.0%と増加する。40代の成育住宅は、50代の成育住宅から全く変化がみられないが、30代の成育住宅は、(A)タイプ15.0%、(B)タイプ50.0%となり、(B)タイプが(A)タイプを上回る。20代の成育住宅は、(A)タイプ5.0%、(B)タイプ65.0%となり、60代以上の成育住宅と比較すると(A)タイプと(B)タイプの割合が大きく逆転している。また、外部開放型と内部閉鎖型をともに有する(C)タイプは60代以上の成育住宅においては5.0%と、ほとんどみられないが、50代、40代の成育住宅においては15.0%と増加し、30代の成育住宅においては35.0%にまで増加し、20代の成育住宅においては30.0%となっている。このように、昭和期における廊的空間は縁側に代表される外部開放型から中廊下に代表される内部閉鎖型へと移行してきたといえる。また、外部開放型の廊的空間の中心を占める縁側は、60代以上の成育住宅においては、複数の部屋の周囲をとりまくように付随し、外部空間との境界が雨戸で仕切られている、いわゆる縁側廊下が主流であったが、20代の成育住宅における縁側は、いわゆるぬれ縁が主流となっている(図3)。

図3 プランタイプの経年変化¹⁾

4. 廊的空間における発生行為

4-1. 行為の分類

インタビュー調査で得られた行為すべてを対象としてその分類を行うと、大きくはあそび、生活行為、学習、行事の四種類に分類できる(表5)。またa. b. c. d. h. は被験者自身による行為であるが、e. f. g. i. は被験者の家族による行為も含む。

表5 廊的空間における行為

大分類	小分類	行為の具体例
あそび	a. 動的あそび	キャッチボール、廊下の壁を登る、ペットとあそぶ、ボウリング、プロレスごっこ、スケートごっこ
	b. 静的あそび	お手玉、おはじき、トランプ、ミニカー、ままごと、将棋、メンコ、ビーダマ、ブロック、人形あそび
	c. 趣味行為	読書、魚・虫を飼う、グローブ磨き、釣具の手入れ、魚釣り、スキー板の手入れ、
	d. 創作行為	工作、彫刻、お絵かき、お手玉作り、人形作り、竹とんぼ作り、プラモデル作り
生活行為	e. コミュニケーション	近所の人のおしゃべり、行商・訪問販売との取引
	f. 飲食行為	お茶を飲む、食事をする、おやつを食べる、スイカを食べる
	g. 日常行為	昼寝、洗濯物をたたむ、裁縫、ひなたぼっこ、散髪、布団干し、電話、耳かき
学習	h. 学習	勉強、習字、資料作り
行事	i. 行事	十五夜のお月様（月見、供えもの）、節分の豆まき、葬式

4-2. 外部開放型の廊的空間における行為

【あそび】 動的あそび（57.1%）に関しては、60代以上、50代を中心に「鬼ごっこ」「かくれんぼ」が特に多い。これらのあそびをする理由として、住宅内に外部開放型の廊的空間を含む回遊性があることを指摘する人が多く、その廊的空間のほとんどが縁側廊下であり、外部に加え、さらに複数の部屋を接続する空間であった。ぬれ縁においても動的あそびはみられるが、種類は限られていた。

「けんかしたとき、よく家の中を走り回りましたね。」（70歳、女性、図4a）

「鬼ごっことかは縁側も、家中ぐるぐる、ぐるぐる。それは公認だから。」

（68歳、男性、図4b）

「縁側は気持ちよくて、どたどたと走り回っていた思いが。」（61歳、女性）

「走り回ったわよ。それこそ部屋が抜けてますからね。もう、かけずり回ってね。」（84歳、女性）

「縁側でつるつる滑ってた。」（34歳、女性）

図4 (a-b) 動的あそびの行われる外部開放型の廊的空間例（庭に面した縁側廊下を走り回る）

一方、静的あそび（58.7%）に関しては、60代以上、50代の女性を中心に「お手玉」「おはじき」「ごっこあそび」「人形あそび」の順で多い。これらのあそびは、空間の形状に左右されることはない。また特に縁側については、あそび場として捉えている人が多く、あそび場としての機能を十分有しているといえる。

「（縁側は）いいあそび場だったわね。ままごとしたり、お店屋さんごっこをしたり。」（84歳、女性）

「おはじきとかね、これをやるのは縁側ですよ。」（68歳、男性、図4b）

「いつも友達があそびに来たら、縁側でね、おはじきしたり、お手玉したり、あやとりやったり、それから人形ごっこしたんですよ。」（77歳、女性）

「お婆ちゃんがよくここでお手玉とか作ってね、お手玉とかおはじきとかがこの廊下でできるんだ。」（50歳、女性、図5a）

「庭で缶けりしたり、ままごとしたり。だいたい庭でおままごとをしてて、

寒くなると縁側に移動する。」（50歳、女性、図5b）

「雨降ったり雪降ったりして動けないときは縁側であそんだね。」（68歳、男性、図4b）

図5 (a-b) 静的あそびの行われる外部開放型の廊的空間例（縁側を拠点としてあそびが庭に拡張する）

趣味行為（31.7%）や創作行為（36.5%）に関しては、こうした行為をする理由として、外部開放型の廊的空間がのどかでくつろいだ空間であることや、そこが内部空間と外部空間との中継点であることから内部空間と外部空間のいずれにも拡張できるということを挙げている。

また、こうした空間の多くは縁側であり、その素材は板張りであることから、床を汚すような行為が多くなる趣味行為や創作行為を、畳のある居室よりも縁側で行うことが適しているからと答える人が多い。また、暗黙の了解で、畳では床が汚れるような行為が禁止になっていたと答えた人もいる。

「夏になると、蛭を採ってきてかごに入れてね、縁側に置いておきましたよ。」（84歳、女性）

「父が俳句が好きでね、月を見るときには縁側に役に立ったね。」（68歳、女性、図6a）

「（縁側では）竹とんぼなんか近所の男の子と作ったりしましたね。」

（77歳、女性）

「（縁側に）座ってよく外見てたりとか、雨が降ってもあそべるし、プラモデルとか作って、セメダインとか（家の中だと）臭いじゃん。あと、ミニカーを走らせたり。」（22歳、女性、図6b）

「（縁側は）夏はフローリングは冷たいし、あと畳の部屋ばかりだったんで、そこでごろっと寝たり、畳は粉だらけになるんで彫刻とかは縁側でやりました。」（40歳、女性）

図6 (a-b) 趣味行為・創作行為の行われる外部開放型の廊的空間例（縁側に腰かけて庭を見ながら行為が行われる）

表6 外部開放型の廊的空間におけるあそび²⁾

a. 動的あそび具体例		人数（人）	c. 趣味行為具体例		人数（人）
かくれんぼ・鬼ごっこ		18	読書		9
ボールあそび		10	魚・虫などを飼う		8
ペットとあそぶ		8	編み物		5
メンコ		6	d. 創作行為具体例		人数（人）
b. 静的あそび具体例		人数（人）	工作		12
お手玉・おはじき		19	プラモデルづくり		5
ごっこあそび		14	人形・人形の服づくり		4
人形あそび		9	お手玉づくり		4
将棋		5	竹とんぼづくり		4

【生活行為】 外部開放型の廊的空間は、「近所の人とおしゃべり」など親しい人とのコミュニケーション(50.8%)の場となっており、それにともない、「お茶を飲む」などといった飲食行為(60.3%)も多く行われている。また、特に縁側に関して最も印象に残っていることとしてコミュニケーションを挙げた人が多い。飲食行為に関しては、「お茶を飲む」以外に「スイカを食べる」といったものや、夏の気持ちのいい日に縁側で「食事をする」と答えた人もおり、季節感を感じられる行為が多いといえる。

「お母さんの友達が来ると、縁側と土間、7:3の割合でもてなしましたね。」(32歳、男性、図7a)

「縁側では近所の人が集まって、お茶飲みしてたね。座敷に上がらずね。」(84歳、女性)

「縁側では婆さんが仕事してたから、そこで、近所の人が婆さんと話したりね。」(68歳、男性、図4b)

「(お客さんが来たら)ふつうは縁側でお茶とか出してもてなしますね。」(68歳、女性)

「スイカを食べるのは縁側だよ。」(24歳、男性、図7b)

「スイカなんかは絶対縁側ね。」(84歳、女性)

「夏になると、縁側を利用して食事してました。」(32歳、男性)

図7 (a-b) 生活行為の行われる外部開放型の廊的空間例
(縁側に腰かけて飲食することにより外部の人と交流できる)

日常行為(58.7%)に関しては、「昼寝」「ひなたぼっこ」といった被験者自身による行為が上位を占めているが、「洗濯物をたたむ」「裁縫」「豆干し」「納豆のかき混ぜ」など被験者の家族を含めての家事の場としても利用されている。こうした行為をする理由として、日当たりのよさ、明るさ、暖かさが挙げられている。

「縁側はいつもお爺さんとお婆さんがひなたぼっこしてて、南側だから日当たりがよかったんですよ。」(77歳、女性)

「昼寝とかするのは夏は縁側ですよ。」(32歳、男性、図8a)

「お布団干すには縁側に並べておくとかやったんじゃない。」(68歳、女性、図8b)

「縁側っていうのは日当たりがよくて気持ちが良いから、母がよく裁縫していたの。」(68歳、女性、図8b)

「編み物したり洋裁したり、ミシンが終われば、ここ(縁側)でまとめたり何かして、編み物は縁側でしたね。日当たりがよくて。」(71歳、女性)

「縁側では、昔は豆干してさ。」(50歳、女性)

図8 (a-b) 日常行為の行われる外部開放型の廊的空間例
(日当たりのいい縁側で庭を見ながらの行為が行われる)

表7 外部開放型の廊的空間における生活行為

e. コミュニケーション具体例	人数(人)	g. 日常行為具体例	人数(人)
近所の人とおしゃべり	33	昼寝	10
行商・訪問販売の取引	2	ひなたぼっこ	8
f. 飲食行為具体例	人数(人)	洗濯物をたたむ	6
お茶を飲む	30	耳かき	5
食事をする	7	布団干し	2
スイカを食べる	7	裁縫	2
おやつを食べる	6	納豆のかき混ぜ	2
		豆干し	1

【学習】 学習(14.3%)に関しては、学習やそれに類似する行為が縁側においてなされるという例がみられる。こうした行為は世代が高いほど多くみられるが、その理由として世代が高いほどほとんど自分自身の部屋というものを所有していなかったためと考えられる。また、中には少数ながら縁側を完全に自分の勉強部屋として使用していた例もみられた。

「縁側で勉強してたよ。机置いて。自分の部屋ないから。」(85歳、男性)

【行事】 行事(25.4%)に関しては、特に「十五夜のお月様(月見、お供え物)」を挙げた人が多く、当然のことではあるが、その理由として、縁側からは月がよく見えるからと答えている。また縁側にお供え物を飾るという例もみられた。

「十五夜には縁側にお団子供えたね。」(81歳、女性)

「七夕のときは縁側に飾った。」(22歳、女性)

4-3. 内部閉鎖型の廊的空間における行為

【あそび】 動的あそび(36.8%)に関しては、20代を中心として、キャッチボール、スーパーボール、ボウリングなどの「ボールあそび」、ついで「廊下の壁を登る」が多くみられた。こうしたあそびをする理由として廊下の両側に壁があるという閉鎖性、細いけれども長い線状形であること、板張りであることによる素材感が挙げられている。

「(廊下で)スーパーボール使ってあそんだ。ドアを閉めると細長くなるから、いろいろはね返ったりして。」(25歳、女性、図9a)

「おもちゃのボウリングやった。細長いから。」(24歳、男性)

「野球が好きだったんで、他の部屋とつなげて長くして兄貴と野球した。」(27歳、男性、図9b)

「廊下にロウ塗って滑りよくして、スケートみたいに滑ったりしてあそんだんですよ。後でお母さんにひどく怒られましたけど。」(23歳、女性)

図9 (a-b) 動的あそびの行われる内部閉鎖型の廊的空間例
(廊下では長さや閉鎖性を必要とするあそびが行われる)

また、静的あそび(19.3%)に関しては、20代を中心として、「ミニカー・ラジコンカー」といった車あそびが特に多く、そうしたあそびをする理由として、廊下が細いけれども長い線状形であること、また板張りであることからそうしたあそびに適していることが挙げられている。他にも「ごっこあそび」を始め「トランプ」「お手玉」「ビーダマ」「ブロック」など少数ながら多様なものがみられた。

「ラジコンとかやるのは、部屋は机とかあって狭いから、廊下だとまっすぐ長いから、距離だね。」(24歳、男性、図10a)

「(廊下で)ミニカー走らせたね。長いから。」(23歳、男性)

「チョロキュー(ゼンマイ仕掛けのミニカー)とかやったよね。それを廊下で走らせた。」(23歳、男性、図10b)

図10 (a-b) 静的あそびの行われる内部閉鎖型の廊的空間例
(廊下の長さ・板張りを利用しての車あそびが行われる)

趣味行為(12.3%)、創作行為(8.8%)に関する行為もみられるが比率は高くない。こうした行為をする理由としては、居室の床が畳であるため、汚れた場合の始末が楽な廊下で行うと答えている。また趣味行為に関しては、内部閉鎖型の廊的空間においても、そこに本棚がある場合、そこに腰を下ろして読書をする例がある。その行為をする理由として、そこが狭くて落ち着くからと答える人もいるが、全体的には日当たりがよくない限りくつろげる行為はみられないといえる。

「プラモデルとかは廊下で作った。色とか塗るときに汚れてもいいから。」

(23歳、男性)

「本なんか読んでました。日当たりがよかったので。」(22歳、女性)

「竹あそび、竹とんぼ、紙ヒコーキづくり、プラモデル、それから読書に…」(52歳、男性、図11a)

「本棚があったから、廊下で本読んでいた。」(23歳、女性、図11b)

図11 (a-b) 趣味行為・創作行為の行われる内部閉鎖型の廊的空間例
(部屋が汚れる様な行為は廊下で行われる)

表8 内部閉鎖型の廊的空間におけるあそび³⁾

a. 動的あそび具体例	人数(人)	c. 趣味行為具体例	人数(人)
ボールあそび	12	読書	4
廊下の壁を登る	6	d. 創作行為具体例	人数(人)
かくれんぼ・鬼ごっこ	5	工作	2
ペットとあそぶ	3	人形作り	2
b. 静的あそび具体例	人数(人)		
ミニカー・ラジコン	5		
ごっこあそび	3		

【生活行為】 日常行為(26.3%)に関しては、「電話」「昼寝」の順に多い。電話をする理由として、電話が廊下に置かれているからという他に、居室に電話が置いてあっても廊下にて電話することがあり、プライバシーを保つために内部閉鎖型の廊的空間の閉鎖性を利用していいといえる。また、廊下で昼寝をする理由としては、涼しいからという人が多く、これは、閉鎖性に加え、板張りであるための素材感が関係するといえる。コミュニケーション(5.3%)、飲食行為(5.3%)などのくつろいだ行為はほとんど行われていない。

その理由として、閉鎖性、暗さ、狭さなどが挙げられている。

「親父がいないときとか、お客さんが来る心配のない時にはここで昼寝と化したよ。」(22歳、男性、図12a)

「廊下は電話をかけるくらい。あそぶことはなかった。」(21歳、男性)

「雨の日は洗濯物がいっぱい干してあった。」(54歳、女性、図12b)

「暑い日に廊下で寝た。」(25歳、男性)

「(廊下は)暗くて涼しい、だから昼寝とかすごく気持ちよいのね。」(21歳、男性)

「夏の暑い日に廊下で寝た。」(27歳、男性)

図12 (a-b) 生活行為の行われる内部閉鎖型の廊的空間例
(板張りのひんやり感が気持ちよいので廊下で昼寝をする)

表9 内部閉鎖型の廊的空間における生活行為

e. コミュニケーション具体例	人数(人)	g. 日常行為具体例	人数(人)
近所の人のおしゃべり	3	電話	5
f. 飲食行為具体例	人数(人)	昼寝	4
食事をする	1	けんか	2
お茶を飲む	1	洗濯物をたたむ	2
おやつを食べる	1	野菜を保存する	1
		廊下に立たされる	1

【学習】 学習(7.0%)に関しては、ほとんど行われませんが、これは世代が低いほど、勉強部屋を所有するようになっていることも影響していると思われる。しかし、L字型のコーナーにおいては、落ちつけるからという理由で勉強をする人もみられた。また、習字のように部屋を汚すおそれのある行為については廊下で行うと答えた人も多い。

「勉強とかの気分を変えるときに(廊下で)やった。ふだん、何も置いてないから自分の部屋が汚くても、ここはきれいだし、あと、狭いから落ち着く、ていうのがあって気分転換できる。」(27歳、男性)

「グループごとで発表するときみんな廊下に資料広げてやったのを覚えている。」(24歳、男性)

【行事】 行事(5.3%)に関しては、外部開放型である縁側にみられた「十五夜のお月様」は全くみられなかったが、かわって「節分の豆まき」がみられた。その行為をする理由として、豆を居室にまくよりは、何もものが置かれていない廊下の方が掃除がしやすいからと答えている。また、各家庭で伝統的な行事が行われなくなってきたことにより、こうした行事自体が行われなくなってきたことも影響していると思われる。

「クリスマスツリーはホールに置いた。」(23歳、女性)

「節分は廊下でやったね。ふつうの部屋でやるとぐちゃぐちゃになっちゃうから……。廊下だったら何もないから廊下を掃除して、豆をまいて拾って食べる。」(30歳、女性)

5. 廊的空間における行為の経年変化

5-1. 外部開放型の廊的空間における行為の経年変化

外部開放型の廊的空間としては、ぬれ縁や縁側廊下、外部空間に対して拡張性を有する片廊下がみられる。縁側廊下が主流である60

代以上や50代においては「かくれんぼ」「鬼ごっこ」など回遊性を要する「動的あそび」が多くみられるが、ぬれ縁が主流となる20代においてはみられなくなる。そのため、外部開放型において「動的あそび」が発生する比率こそ減少していないが、そこで行われている行為の種類は減少傾向にある。その他の「動的あそび」および他の行為についてはこれら空間の種類による行為の差はあまりみられない。また「静的あそび」「コミュニケーション」がやや減少傾向にあることを除けば、全体的に行為の種類・頻度はいずれの世代においても多く、したがって外部開放型は多様な機能を有している空間であるといえる（図13）。

図13 外部開放型の廊的空間における行為の経年変化⁴⁾

5-2. 内部閉鎖型の廊的空間における行為の経年変化

内部閉鎖型の廊的空間としては、玄関ホールその他、外部に対しての拡張性を有しない片廊下や中廊下などのいわゆる廊下がみられる。玄関ホールでは人の流れが激しいため、ほとんど行為はみられない。したがって、内部閉鎖型の廊的空間における行為のほとんどが廊下において行われている。20代の「動的あそび」が多くみられるのは、あそびの多様化による影響が大きい。例えば、「動的あそび」の主流を占める「ボールあそび」は、従来はキャッチボールが主であったが、20代においてはスーパーボール、ボウリング、ピンポン、風船バレーなど様々なものがみられる。このほかこどものあそびが外あそびから内あそびへと移行してきたことの影響もあると思われる⁵⁾。20代の「日常行為」が多くみられるのは、「電話をする」といった閉鎖性を利用した行為によるものである。幾分回復のみられる行為もあるものの、全体的に行為の種類・頻度はいずれの世代においても少なく、したがって内部閉鎖型は外部開放型と比較して多様な機能を有していない空間であるといえる（図14）。

図14 内部閉鎖型の廊的空間における行為の経年変化⁶⁾

5-3. 廊的空間における行為の経年変化

外部開放型と内部閉鎖型とを区別せず、廊的空間における行為の経年変化を比較すると（図15）、行為の発生頻度は全体的に減少傾向にあるといえる。「動的あそび」「静的あそび」も30代までは減少

傾向にある。20代において増加するが、これは20代におけるあそび内容そのものが他の世代にくらべて大きく変質しているためでもある。また「創作行為」「コミュニケーション」「飲食行為」などの行為には特に著しい減少がみられる。このように、廊的空間が縁側に代表される外部開放型から中廊下に代表される内部閉鎖型へと移行してきたことによる影響が、そのまま廊的空間における行為の減少として表れている。したがって、廊的空間における機能も通行が強調されることになるのではないだろうか。

図15 廊的空間における行為の経年変化（○内の数字は%を表す）

6. 廊的空間の種類による比較

廊的空間で行われる行為の発生頻度について、各世代ごとに外部開放型と内部閉鎖型とで比較すると（図13、14）、20代の「動的あそび」「学習」、50代の「趣味行為」以外のすべてにおいて内部閉鎖型の行為の発生頻度が外部開放型に対して下回っている。また20代の「動的あそび」はいずれの廊的空間においても多くみられるものの、外部開放型においては「鬼ごっこ」「かくれんぼ」などのような大勢で行われる交流をとまなうあそびはみられなくなり、あそびの種類は減少している。また、内部閉鎖型においても「動的あそび」における「ボールあそび」などを中心としたあそびの多様化、「静的あそび」における「ミニカー・ラジコンカー」など新しいあそびの登場により、あそびの内容が変質していることも考慮する必要がある。また特に「創作行為」「コミュニケーション」「飲食行為」などくつろいだ行為、交流をとまなう行為は、いずれの世代においても外部開放型では多くみられるのに対して、内部閉鎖型においてはほとんどみられない。

次に外部開放型と内部閉鎖型における行為をそれぞれ全世代分合計して比較すると（図16）、すべての行為において、外部開放型が内部閉鎖型に対して上回っている。特に「創作行為」「コミュニケーション」「飲食行為」における差が顕著であった。

近年、あそび行為そのもの、あるいはあそび体験そのものが減少傾向にあり、廊的空間におけるあそび行為も減少しているであろうと予想されたが、外部開放型においては現在でもなおあそびを始めとした多様な行為がみられる。つまり外部開放型は内部閉鎖型にくらべ、様々な行為が行われ得る多様な機能を持ち合わせた空間であるといえるのではないだろうか。

図 16 全世代における廊の空間の種類による行為の比較

外部開放型の廊の空間における行為に影響を与える要素として、その空間と他の居室あるいは外部を含んだ回遊性、板張りであること、明るさ、暖かさ、外部と内部のいずれの空間にもなり得る拡張性を有することなどが挙げられる。

内部閉鎖型の廊の空間における行為に影響を与える要素として、両側が壁であることによる閉鎖性、細くて長い線状形であること、板張りであることなどが挙げられる。しかし、閉鎖性、暗さ、狭さなど行為を妨げるような要素も有しており、そのため廊の空間に対してよい印象をもたない人もいる。明るさ、暖かさなどは、内部閉鎖型に補うことが可能な場合もあるが、さらに外部空間への拡張性を有する空間とならない限り、従来の外部開放型にみられたような多様な「あそび」「生活行為」の回復は見込めないであろう。

昭和期の住宅において、縁側などの廊の空間は本来多様な機能を有していたといえるが、これは空間が外部への拡張性を有する外部開放型であったことによるところが大きい。しかし、廊の空間、特に廊下について、その空間を単に通行の機能を有するものと考えようになった結果、外部開放型は減少し、同時に多様な機能もみられない空間へと変化してきたのではないだろうか。その結果、廊下に代表される廊の空間はつまらない空間と化し、また時として必要のない空間として捉えられることすらあるようになったのではないだろうか。

「縁側にくらべて中廊下は本当にあそばなかった。」(50 歳、女性)

「中廊下はトイレに行くときだけでしたね。」(68 歳、女性)

「廊下は夜通るのが怖い。」(22 歳、女性)

「(廊下は) すごく無意識の空間だよ。」(25 歳、男性)

「(廊下では) まったくあそばない。廊下であそんだことがない。」(41 歳、男性)

「廊下は通路ですね。廊下ではあそばないですね。」(32 歳、女性)

「(廊下は) いらない。どこからも光が入ることがないから暗い。全部部屋にしてしまった方がいい。」(25 歳、男性)

「南にある廊下は結構使われるんじゃないでしょうか。」(22 歳、女性)

7. 結論

昭和期住宅において、縁側に代表される外部開放型の廊の空間はこの40年間に激減している。かわって中廊下に代表される内部閉鎖型の廊の空間が増加してきた。廊の空間における発生行為には、あそび(動的あそび、静的あそび、趣味行為、創作行為)、生活行為(創作行為、コミュニケーション、日常行為)、学習、行事といった多様なものがみられた。

外部開放型は年々減少傾向にあるものの、すべての世代において多様な行為が確認された。

一方、内部閉鎖型は年々増加傾向にあるが、各世代のほとんどの行為において、外部開放型に対して行為発生頻度が下回っており、「あそび」に限らず、「生活行為」などくつろいだ行為、交流をとまなう行為の差は顕著であった。

各世代における廊の空間での行為の経年変化をみると、年々行為の発生頻度が減少し、多様ではなくなっているが、これも結局は廊の空間が外部開放型から内部閉鎖型へと移行してきたことによるところが大きいといえる。内部閉鎖型にも明るさや、暖かさなどといった要素を補うことは可能であるが、外部空間との回遊性や、外部空間への拡張性を補うことは不可能であり、結局、外部開放型の廊の空間を有しない住宅においては、従来のような多様な「あそび」「生活行為」の回復は見込めないであろう。

現在、日本の住宅は土地不足などのため、敷地面積や延べ床面積が小さくなっている。そのため限られた面積でいかに豊かな空間を創るかが課題となっているといえる。現代の住宅において一般的となった中廊下に代表される内部閉鎖型の廊の空間は通行の機能を中心としたものであり、多様な行為を減少させる要因となってしまったのではないだろうか。それに対して、縁側に代表される外部開放型の廊の空間は、こどものあそびを中心として、くつろいだ行為や交流をとまなう行為を含めての多様な行為が行われ得る、生活を豊かにする空間であるといえる。このような縁側に代表される外部開放型の廊の空間が住宅において果たしていた役割について再認識する必要があるのではないだろうか。縁側廊下の回遊性を有する外部開放型の廊の空間が設けられれば理想的であるが、縁側、デッキ、ポーチなど外部と内部の緩衝空間となる外部開放型の廊の空間を設けるだけでも、そこには多様な機能が生まれるであろう。また内部閉鎖型となる場合でも、せめて明るさ、広さ、滞留が可能なスペースの確保など、通行以外の機能に配慮することが必要であろう。

注

- 1) 1996 年の調査時における 20 代の者が 10～12 歳であった頃というのは、1977 年～1988 年頃であり、ほぼ 1980 年代に相当するといえる。以下同様に 30 代の場合は 1970 年代、40 代の場合は 1960 年代、50 代の場合は 1950 年代、60 代以上の場合は 1940 年代以前に相当するといえる。
- 2) 同一人物が複数の行為をしている場合もある。なお、外部開放型におけるあそびの行為は非常に多様であり、行為数も多いことから、3 人以下であった行為は省略されている。
- 3) 同一人物が複数の行為をしている場合もある。なお、内部閉鎖型におけるあそびの行為のうち動的あそび、静的あそびについては多様であったため、2 人以下であった行為は省略されている。
- 4) 各世代における外部開放型の廊の空間の数を 100% とし、その行為が行われている比率を表したものである。したがって、発生行為の延べ数ではなく、発生した空間数の比率を表している。
- 5) 参考文献 2) pp.168-170 によれば、1980 年代には完全に内あそび時間が外あそび時間を大きく上回っている。
- 6) 各世代における内部閉鎖型の廊の空間の数を 100% とし、その行為が行われている比率を表したものである。したがって、発生行為の延べ数ではなく、発生した空間数の比率を表している。

参考文献

- 1) 仙田満：原風景によるあそび空間の特性に関する研究-大人の記憶しているあそび空間の調査研究、日本建築学会論文報告集 No.322、1982.12
- 2) 仙田満：『子どもとあそび』、岩波新書、1992 年
- 3) 確田智子、住田昌二：戦前における日本人の住宅像に関する研究-雑誌・文献記事にみる住宅像の分析、日本建築学会近畿支部研究報告集、1991.5
- 4) 小林秀樹：現代住居における場の支配形態-住居における生活領域に関する研究、日本建築学会論文報告集 No.468、1995. 2
- 5) 新建築学体系 7・『住居論』、彰国社、1980 年

(1997 年 6 月 10 日原稿受理、1997 年 12 月 9 日採用決定)